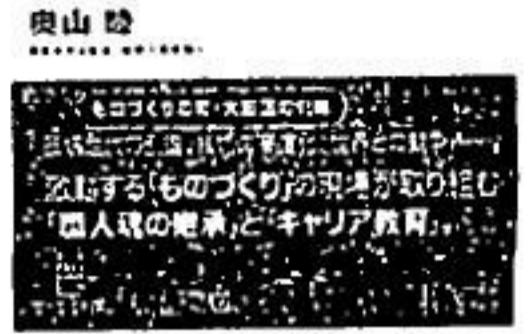


「職人の作り方」奥山睦著

職人の作り方
ものづくり日本を支える大田区の「ひとづくり」



マイコミ新書
780円(税抜き)

経済図書室

著者は、「ものづくりの町」として知られる東京・大田区で、中小製造業の経営者を題材に執筆活動を続けている。本書のテーマは「ひとづくり」だ。担い手不足が深刻になるなか、「『ものづくり』と『ひとづくり』は切っても切り離せない」との立場から現場を追う。
ある経営者は「くれぐれも職人にはなつてほしくない」と社員に言っている

地域の熱意で
「ひとづくり」

いう。逆説的だが、必要以上に高性能なものではなく、役に立つ製品を「極力早く効率よく」作るよう意識改革を促しているのだ。

ものづくりの現場を敬遠しがちな若者が増えるなかで、大田区の企業が、地元高校と連携して、生徒に部品の穴あけなどものづくりを実践的に教え、その面白さを気づかせる仕組みなどが紹介されている。「ひとづくり」に取り組む地域の熱意が伝わってくる本だ。(拓)

目利きが選ぶ今週の3冊

(★★★★★これを読まなくては損をする、★★★★読みこたえたつぶり、お薦め)★★★★読みこたえあり、★★価格の価値はあり、★話題作だが、ピンとこなかった)

陣野俊史
批評家

中沢孝夫
福井県立大教授

野崎六助
評論家

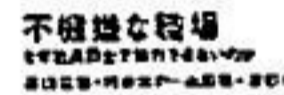
母の家で過ごした三日間
フランソワ・ヴェイエルガンス著

前金を貸っているのに、肝心の小説が書けない。そればかりか、妄想が妄想を生んで、どんどん舌は脱線していく。フランスを代表する文学賞、インクル賞受賞作。渋谷豊訳。(白水社・2300円)

★★★★★

不機嫌な職場
高橋克徳ほか著

(講談社現代新書・七二〇円)



★★★★★

流星の絆
東野圭吾著

『仇討ち物語』トレンディ・ドラマ版。3人兄妹の強固なチーム・プレイが、親のカタキを時効寸前に追いつめ、そして衝突の真相が。ノリにノッている作者の新たなヒット作だ。(講談社・1700円)

★★★★★

静かな爆弾
吉田修一著

テレビ局に勤め取材で人の声を集める仕事をすする俊平は、ある日、東京の神宮外苑で耳の不自由な女性と出会う。2人は意気投合が……。恋愛小説の名手の最新作。(中央公論新社・1300円)

★★★★★

スーツの適齢期
片瀬平太著

目からうろこ。「ぼろを着ててもこころの錦」ではなく、きちっと装わなければいけないのだ。ビジネスマンは場所をわきまえて自らを飾れ。「装熟度」が問われている。(集英社新書・720円)

★★★★★

道化の町
ジェイムズ・パウエル著

(河出書房新社・11,100円)



★★★★★

文学鶴亀
武藤康史著

(国書刊行会・11,100円)



★★★★★

職人の作り方
奥山睦著

中小企業の経営者自身が自らの「魅力を発信していく技術を備える必要がある」。東京・大田区でたくさんの企業と人からインタビューした実証的なすばらしい本である。(マイコミ新書・780円)

★★★★★

ライノクス殺人事件
フィリップ・マクドナルド著

じつにもって回った構成と文体。話の底は、見当がつくとはいえつづが、そこは古典ゆえに許せる。遺伝学の生きた証拠のような父と息子の連携が痛快だ。霜島義明訳。(創元推理文庫・640円)

★★★★★

2008.4.22
読者771